

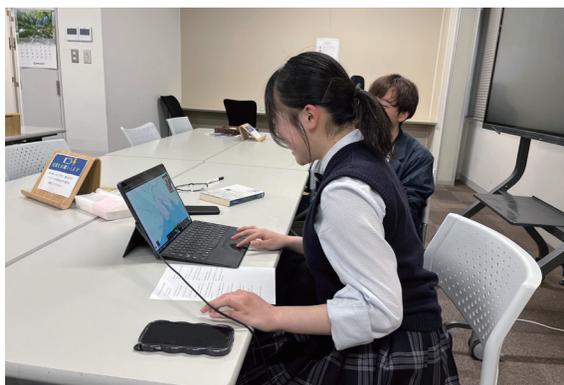


オンライン国際交流企画

6月2日、まちなか鳳雛塾でオンライン国際交流の時間が行われました。今回の相手は、K-POP好きなポルトガル人のダニエルさん。英語を使って画面越しに会話をしながら、お互いの国について紹介し合う和やかなひとときとなりました。

参加した塾生の話によると、ダニエルさんからはポルトガルの有名な食べ物や観光スポット、エッグタルトはポルトガル発祥であることなど、色々な話を聞くことができたそうです。なかでも「家族そろって昼ごはんを食べるという文化」の話はとても興味深かったとのこと。「聞いたことのない話ばかりで、すごく面白かった」と笑顔で語ってくれました。参加した生徒は、能登町のことも英語で紹介しました。「魚が新鮮でおいしいよ」と英語で伝えると、ダニエルさんも興味津々の様子だったとか。

共通の話題だったK-POPでは大いに盛り上がった一方で「言いたいことが英語でうまく説明できなくて悔しかった」とも。けれどその悔しさが「もっと話せるようになりたい!」という前向きな気持ちにつながったようです。今回の交流を通じて、生徒は英語を学ぶことの面白さや、自分の言葉で世界とつながることの楽しさを実感しました。まちなか鳳雛塾では、今後もさまざまな国の人々と出会える国際交流の企画を予定しています。



▲オンライン国際交流企画

先達との語らい

～京都外国語大学の先輩から話を聞いてみよう～

まちなか鳳雛塾では、高校生が自分の進路について考えるために、実際に大学で学ぶ先輩とつながる「先達との語らい」企画を定期的実施しています。今回は、京都外国語大学 外国語学部 英米語学科 4年生の室谷真央さんとオンラインで対話を行いました。室谷さんは元まちなか鳳雛塾生です。

参加した塾生は、国際的な分野への関心から国際系の学部を志望していましたが、「外国語学部と国際学部の違いがわからない」と悩んでいるところでした。先輩の体験談を通して、言語そのものを学ぶ外国語学部と、国際社会や国際関係の課題を扱う国際学部との違いを具体的に知ることができました。

たとえば、国際学部の授業では、模擬国連（Model UN）のようなディスカッション形式の講義があり、学生が国連加盟国の代表となって、国際的な課題に対して自国の立場を表明し、交渉を行う実践的な学びが取り入れられているとのこと。こうした授業では、英語力だけでなく、情報収集力、論理的思考、そして他者との協働力が求められ、まさに「世界と向き合う力」が鍛えられていると感じさせられました。

また、留学制度の話では、ただ「海外に行く」というだけではなく、複数の選択肢があることに驚かされました。交換留学や認定留学、語学研修などの制度が整備されており、学生の目的や英語力、生活スタイルに合わせて柔軟に選べるようになっています。「学費がどうなるか」「単位はどのように認定されるか」など、気になる点も丁寧に説明され、具体的なイメージを持つことができました。さらに、他大学の講義を履修して自大学の単位として認定される制度があることも紹介され、大学生活の幅広さや自由度の高さに驚いた様子も見られました。

塾生からは、「これまで漠然と“英語が好き”という理由で学部を考えていたけど、学び方や目指す方向性が全然違うことがわかって本当に勉強になった」との感想があり、進路選択への視野が広がったようです。

今回の対話は、大学でのリアルな学びや制度に触れながら、自分が将来どう学び、どう生きたいのかを考える貴重な時間となりました。まちなか鳳雛塾では、これからも生徒一人ひとりの関心に寄り添いながら、進路発見のサポートを続けていきます。



▲先達との語らい

地域みらい留学フェス in 東京 ～能登高校の魅力を全国へ～

能登高校は6月21日と22日に東京流通センターで開催された「地域みらい留学フェス in 東京」に出展しました。このイベントは、県外から入学者（地域みらい留学生）を募集している全国各地の特色ある公立高校が一堂に会し、中学生とその保護者に対して学校や地域での学びを紹介する大規模な合同説明会です。今回は150校を超える高校が集まり、首都圏を中心とした中学生やそのご家族が多数来場しました。

能登高校のブースには、能登高校魅力化プロジェクトのコーディネーター、魅力化スタッフ、教員に加え、現役の能登高校生や地域みらい留学365制度を利用して入学した元生徒（OG）も参加。さまざまな立場から、能登高校の教育内容や能登町での暮らし、高校卒業後の進路支援体制などについて、具体的な事例を交えながら紹介しました。地域で学ぶことへの関心が年一高まっていることもあり、多くの来場者が足を止めて熱心に話を聞いてくださる姿が印象的でした。

今回のフェスでは、能登高校ならではの取り組みの一例として、地域産業科（農業選択）の授業で取り組まれている養蜂実習で採取された「能登高校産はちみつ」の試食を提供しました。はちみつは能登高校柳田校舎で採蜜したもので、その自然な甘さとやさしい風味に、「こんな授業があるなんて素敵」「地域の資源を活かした学びができるのは魅力的」と、来場者から驚きと好評の声が多く寄せられました。

能登高校では、「総合的な探究の時間」や「まちなか鳳雛塾」のサポート体制など、地域と連携した学びの場を通じて、生徒が自ら問いを立て、行動を起こす力を育んでいます。また、少人数だからこそできるきめ細かな支援、教員と高校魅力化スタッフが連携した進路伴走体制も、安心して学びを深められる要素の一つとして紹介しました。

また、ブースでは実際に能登高校で学んだ高校生から「地域の方と関わる行事や授業が楽しい」といったリアルな声を来場者に伝えることができました。都会の中学生にとっては、能登の風景や暮らしぶり、高校での取り組みがとても新鮮に映ったようで、保護者からは「本人のやりたいことにじっくり向き合えそう」「地方だからこそその教育の温かみを感じた」といった感想も聞かれました。

。 地域みらい留学制度は、地域の高校と全国の中学生をつなぐ仕組みとして年々注目を集めており、能登高校でも毎年この制度を活用して入学する生徒がいます。町外・県外から能登にやってくる生徒たちは、地元の生徒とともに学び、暮らし、地域に関わることで、互いの視野を広げながら成長しています。

今後も能登高校では、夏に体験入学会などを予定しており、実際に能登の空気や高校の雰囲気を感じてもらえるよう準備を進めています。今回のフェスをきっかけに、より多くの中学生が能登高校に関心を持ち、未来の仲間として出会えることを、スタッフ一同心より願っています。



▲地域みらい留学フェス

お知らせ

まちなか鳳雛塾では、週1回程度を目安として、中学生対象の自習開放日（無料）を設けています。今月の中学生向け自習解放日は7/14(月)7/28(月)7/29(火)です。

7/4(金)は祭礼のため閉塾となります。